

土木工学科卒業生の活躍

皆さんの先輩にあたる土木工学科卒業生のOB・OGは、社会の様々な分野で活躍しています。その業種は、国土政策から都市計画、まちづくり、構造物の設計など幅広く、さらに専門性に特化した仕事など多岐に渡ります。先輩達は皆、土木工学科で学んだ知識と大切な仲間のネットワークを活かし、情熱を持って日々の仕事に取り組んでいます。

内山 宗紀 さん

平成14年度 修士課程修了

鹿島建設株式会社 横浜支店 子安台換気所工事事務所



入社以来、地下鉄の駅・下水処理場・山岳トンネル・空港・シールドトンネル・ガスのパイプライン・浄水場と様々な構造物の建設に携わってきました。また、設計業務にも1年半携わってきました。ゼネコン（総合建設業）の魅力は何と言っても造る構造物のダイナミックさにあります。到底ひとりの力では造ることができない物をみんなで力を合わせて造り上げる。紙の上に引かれたただの線が、



様々な人の力によって実際に構築され、それが社会インフラとして人々の生活に根付いていく様を見るのは何物にも代えがたい達成感が得られる仕事です。

また、ゼネコンは研究開発・設計・施工とプロジェクトの川上から川下まで携わることができます。日本国内だけでなく東南アジア・中東・アフリカ・北米と様々な土地で仕事をしています。職種や人種が異なると、様々な立場、考え方、発想の違いに刺激を受け、自分の視野・世界を大きく広げることができます。

みなさん、家から一歩外に出てみると何が目に入ってきますか？道路があって家・ビルが建ち、少し歩くと駅があって電車が走っている。よく見ると電柱があって電線と電話線、足元にはマンホールがあってガス・上下水道が地中を走っている。川が流れ、そこには橋が架かり、その先に公園があります。土木工学は人々の当たり前の生活を支える学問です。どんな国・どんな人種・どんな宗教の人も土木の力を必要としています。いつかどこかで皆さんと一緒に仕事できる日を楽しみにしています。

石尾 真理 さん

平成12年度 卒業

国土交通省 国土技術政策総合研究所 企画部企画課



これまで日本の道路橋の「設計・管理に関する研究」や「基準の作成」、実際に管理している国や地方自治体の方々への「技術相談」を行ってきました。今使われている橋、これから建設される橋に突きつけられる様々な課題（現在の日本の少子高齢化、災害、設計時には考えていなかった損傷・劣化など）に科学的に向き合い、解決していくのが仕事です。土木の仕事は、人々の安全や社会活動のため、役



職や業種を超えたあらゆる方々の経験や知識、行動力が集結して成り立ちます。土木が無駄だと言われる時代もありました。しかし奇しくも東日本大震災において一般の方に

も明白となりましたとおり、不可欠で、責任ある仕事です。だからこそ、皆さんが誇りを持って携わり、私もその一員として働けることがとてもうれしく思っています。

仕事は主にデスクワークです。道路橋の調査や技術相談のため、平均すると月2回、多いときは1週間のうち3日は日本全国を飛び回っています。基本的には土日は休みなので、運動、旅行、グルメでリフレッシュしています。旅行先ではついつい橋や構造を見てしまいます。（職業病ですね）

日大は卒業生が多く、仕事でも実は卒業生だったということが多くあります。先輩方とのつながりや後輩たちの頑張りがとても支えになります。卒業してからもお本学科卒業生でよかったと思い、感謝することが多くあります。皆さんと土木分野の一員として一緒に働けることを期待しています。